玉川教会たより

NO,463

11月23

ファミリー・ツリー

▼英国では、枝分かれする木のように家系図を描く「ファミリー・ツリー」があり、イエスさまのそれが「エッサイの木」だ。旧約聖書の出来事からイエスさまの誕生へと伝わる物語が一目で分かることから、ステンドグラスと同様の役割を果たした。しかし、清教徒革命以降、「エッサイの木」は掘られた偶像とみなされ、壊されて姿を消した。それが最近家庭で復活している。以上、『エッサイの木』の著者による「はじめに」から。

▼気むずかしい木彫り職人の仕事場にどこからか入り込んで来た少年が、質問し、疑問を投げかけ、或いは感嘆し、これが狂言回しの役割を果たして、木彫り職人によって場面毎に聖書の物語が語られる。

▼これに池谷陽子さんの絵が添えられる。日本語訳の版だけのオリジナルの絵だから、添えられるという表現になるが、不適切かも知れない。とても添え物ではない。池谷陽子さんの絵が先ずあり、これに合わせて文章の部分が記されたかのようだ。そう言ったら、今度は原作者に失礼だろうか。

▼池谷さんの絵はスクラッチという手法で描かれる。巻末に置かれた「エッサイの木」の完成図は、そのまま木版画のようにも見え、木彫り職人の仕事かと思わされる。池谷さんの原画を壁掛け絵にしたいと思ったが、それにふさわしい壁そのものがないか。

▼話を戻して、要は、聖書の物語と、職人と少年との会話、そして挿絵が、実に有機的にと言うべきか、互いに活かされていて楽しい。一冊の本が世に出るには、原作者から始まって、多くの人の手と思いを経る。本もまたツリーだ。

▼さて肝心な原作部分だが、狂言回しを使う手法は特に目新しいものではない。一つ一つの会話も、格別にウイットが効いているという程ではなく、聖書の物語の要約も、斬新とは言えない。しかし、何故だか、読まされる。

▼小説はディティールだと言われる。必ずしも、詳細まで緻密に描かれているという意味ではないだろう。

一例として引用したい。

三人の学者は、夜空の星についてはかしこいかもしれないが、ヘロデは、その星をやっつけるだけのずるがしこさをもっていた。

「星をやっつけるなんて、かなりうでが長くないと無理でしょう。」男の子が言うと、バターフィールドさんはうなずきながら言いました。

「ヘロデは、王さまだからえらいはずだが、気の小さい人だった。気の小さい人は、星には手がとどかないのさ。」

小説はディティールとはこういうことだ。

11～1月の諸集会

諸集会を覚えて、
ご加祷下さい。

教会美化デー
11月23日（日）
ご協力下さい。

収穫感謝日
11月23日（日）
CSでは芋煮会を予定。

アドベント
11月30日（日）～
12月24日（水）

クリスマス諸集会

クリスマス礼拝・愛餐会
12月21日（日）10：30～

教会学校クリスマス会
12月23日（火・祝日）
14：00～

燭火（イブ）礼拝
12月24日（水）19：30～
礼拝後、お茶の会、
キャロリング

越年祈祷会
12月31日（水）23：30～
マナの部屋で行います。

194－0041　町田市玉川学園4の5の32　TEL. 042－732－9321